

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



平成 31 年 1 月



国土交通省

【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL：03-5253-8111（代）

この冊子の作成にあたっては、「UD 書体」「カラー UD」を使用しています。



国土交通省

目 次

■ プログラム	2
■ 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について	3
■ 講 評	4
秋山 哲男 委員（中央大学 教授）	
高橋 儀平 委員（東洋大学 教授）	
三星 昭宏 委員（近畿大学 名誉教授）	
■ 受賞者事例報告	
・「歩くまち・京都」をテーマとしたバリアフリーのまちづくり	6
（京都市）	
・小型機対応の旅客搭乗橋の開発と日本初の導入	8
（宮崎空港ビル株式会社・三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社）	

プログラム

〔平成31年1月25日(金)〕

● 選考委員からの講評

14:00～

中央大学 教授	秋山 哲男 氏
東洋大学 教授	高橋 儀平 氏
近畿大学 名誉教授	三星 昭宏 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

14:30～

京都市

【「歩くまち・京都」をテーマとしたバリアフリーのまちづくり】

京都市では、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を重点施策として掲げ、既存公共交通の再編強化、歩行者優先のまちづくり等の施策を柱として、高齢者や障害のある方をはじめとして、全ての人が安心・安全に生活することができる社会の実現に向けて、駅等のバリアフリー化を推進している。

宮崎空港ビル株式会社・三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社

【小型機対応の旅客搭乗橋の開発と日本初の導入】

宮崎空港ビル株式会社及び三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社では、日本初の小型機対応旅客搭乗橋の共同開発を進めた結果、日本初となる小型機に対応出来る新しいタイプの旅客搭乗橋が完成した。これにより、高齢者や身体の不自由な方の不便を解消し、利便性を高めることに貢献している。

● 表彰状授与式

15:30～

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第12回となる今回も多く優れた取組みが推薦され、なかでも特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男	中央大学	教授
高橋 儀平	東洋大学	教授
三星 昭宏	近畿大学	名誉教授

第12回受賞者の決定

12候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、2件の受賞者を決定しました。

第12回となる今年度の表彰においては、全国各地から12件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全12件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、鉄道・空港といった公共交通や建築物等について、新たな技術開発も含め、意欲的にバリアフリー化を進める取組が見られます。あわせて、ソフト面での支援も含め、きめ細かなバリアフリー化を進める取組も見られます。

また、市街地バリアフリーマップ作りや学校出前体験講座など地域に根ざしたバリアフリー化等の取組が見られるところです。

他にも補助犬に対するサポートや色覚障害に対する取組などバリアフリー化の取組みが幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。



秋山 哲男 委員
(中央大学 教授)



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度その他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「京都市」は、「歩くまち・京都」を重点施策としてバリアフリー化を推進してきました。京都市交通バリアフリー全体構想に続き、「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想を策定しました。そのもとに24地区36駅の「移動等円滑化基本構想」を策定し、当事者参加・参画のもとハード・ソフト両面の施策を推進して障害者・高齢者等の外出と社会参加を促進しました。取り組みの特徴は、1) バリアフリーと公共交通改善、歩行者優先まちづくり、歩く生活様式への転換を結合したこと、2) 縦割りを排して困難な課題にチャレンジしたこと、3) PDCAシステムをつくりバリアフリー継続改善をしたことです。そのなかで京都駅八条口駅前広場整

備事業、四条通歩道拡幅事業など全国的に注目される特徴ある事業を達成しました。これらの先進性と継続性はわが国大都市の模範となるものであり表彰することとしました。

「宮崎空港ビル株式会社」は、社会の様々な変化がある中、会社トップから社員一人ひとりに到るまで地方空港としての誇りを堅持し、自社空港ビルの個性的整備を継続的に展開してきました。今回の受賞対象である小型機用旅客搭乗橋は、「宮崎空港ビル株式会社・三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社」両企業がすべてのお客様への公平な搭乗を目指して試行錯誤を繰り返して実現したものです。「宮崎空港ビル株式会社」ではこの旅客搭乗橋開発と併行して、地域密着型のユニバーサルデザイン整備を積極的に推進しており、他の地方空港ビル整備の模範となるこれらの取組みを高く評価し、表彰することとしました。

今回ご推薦いただいたものには、それぞれの



三星 昭宏 委員
(近畿大学 名誉教授)

特徴ある取組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>



選考風景

講 評

京都市は、「歩くまち・京都」を重点施策としてバリアフリー化を推進してきた。京都市交通バリアフリー全体構想に続き、「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想を策定した。そのもとに 24 地区 36 駅の「移動等円滑化基本構想」を策定し、当事者参加・参画のもとハード・ソフト両面の施策を推進して障害者・高齢者等の外出と社会参加を促進した。取り組みの特徴は、1) バリアフリーと公共交通改善、歩行者優先まちづくり、歩く生活様式への転換を結合したこと、2) 縦割りを排して困難な課題にチャレンジしたこと、3) PDCA システムをつくりバリアフリー継続改善をしたことである。そのなかで京都駅八条口駅前広場整備事業、四条通歩道拡幅事業など全国的に注目される特徴ある事業を達成した。これらの先進性と継続性はわが国大都市の模範となるものであり表彰することにした。

受賞者の取組み

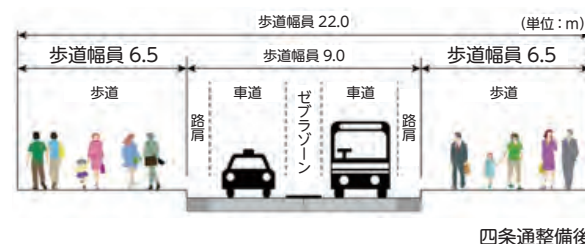
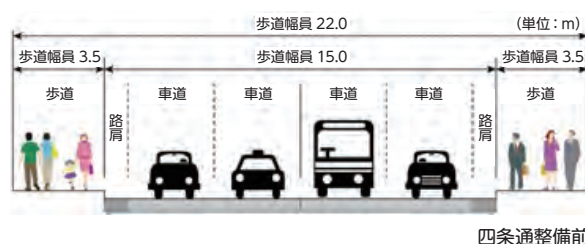
■ 取組みの概要

● 36 駅重点整備地区の移動等円滑化基本構想の策定と多部局連携による継続改善(PDCA)化

京都市はバリアフリー化のマスターとなるプランとして『「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想』を策定し、そのもとに 36 駅の重点整備地区「移動等円滑化基本構想」を策定した。構想の内容は地区の特徴を反映し、京都らしい創意・工夫に満ちたものとした。また当事者の参加・参画や多分野の連携・協働に努めた。継続改善の仕組みが 17 年間で確立されており今後もさらに拡大・発展することが期待される。

● 人と公共交通優先の「歩いて楽しい四条通」歩道拡幅事業

歩道の拡幅とバス停の一体的な整備等により、快適でバリアフリーな歩行空間の創出と公共交通の利便性向上を両立させた。整備にあたっては、地元住民、商業関係者、鉄道・バス・タクシー・物流等の交通事業者、学識者などの関係者と長期にわたる意見調整を行い、適宜、事業計画も修正しながら、実現に至った。とくに自動車交通との調整、公共交通（バス）の重視は全国から注目されている。



● 使いやすく、人にやさしい京都の玄関口を目指した「京都駅八条口」の整備

「京都駅八条口駅前広場整備事業」により、快適な歩行空間の創出や公共交通の乗継利便性の向上など、誰もが安全で快適に歩きやすい歩行者空間の創出を実現。客待ちタクシーや貸切バスによる駅前の混雑を防ぐショットガン方式^(※)の導入、公共交通の乗継利便性を向上させるため、路線バスや高速バス乗り場を駅正面に集約、送迎スペースを確保するなどによりデザインと機能性を兼ね備えたスペースとなり、利用しやすくなったと評価されている。

※タクシーの待機場所を京都駅から離れた場所に設け、駅前の乗降場等の状況に応じて、自動的に待機場所から車両を送り出す方式



京都駅八条口整備前



京都駅八条口整備後

● 心のバリアフリーを目的としたハンドブック作成と周知

ハード整備だけでなく、ソフト対策として、高齢者や障害のある方などに対する市民の理解を深め、積極的な手助けが行えるよう、公共交通事業者、行政機関などが連携し、広報啓発や教育・研修等を展開するなど、「心のバリアフリー」を推進。「心のバリアフリー」ハンドブックを作成すると共に、高校のバリアフリー学習等の機会を通じて、バリアフリーに対する理解を深めるための本市職員による講演等も行っている。内容はすべての人にわかりやすいものとするように努め、また知的・精神・発達障害への配慮に多数紙面をさいていることなどが特徴である。



京都市「心のバリアフリー」ハンドブック

◎ 今後期待される取組み

これまでの蓄積をもとに、さらに多様な人々を対象とするユニバーサルデザインまちづくりを推進してこれからも全国の模範となしてほしい。日本の当事者参画のレベルをさらにあげる見本となることを期待したい。また寺社仏閣、史跡、文化施設、庭園、緑地、観光地などのバリアフリー化についてさらに全国を先導してほしい。

喜びの声



京都市
市長 門川 大作 氏

《コメント》

この度は、大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の理念の下、地域住民、関係団体、鉄道事業者、行政機関等の皆様に御理解と御尽力を賜りながら、まちのバリアフリー化を進めてまいりました。

今回の受賞を励みに、今後も平成 30 年度に施行された改正法の趣旨をしっかりと踏まえつつ、高齢者や障害のある方など、全ての人が進んで外出したくなるまちの実現に全力を尽くしてまいります。

【受賞者】

京都市

【連絡先】

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

【活動等の経緯】

平成 14 年度	「京都市交通バリアフリー全体構想」の策定 (14 地区 (25 駅) の重点整備地区を選定)
平成 15 年度～	選定した重点整備地区ごとに「移動円滑化基本構想」を策定 (～平成 20 年度)
平成 22 年度	選定した重点整備地区中のすべての駅のバリアフリー化を完了
平成 23 年度	「「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」の策定 (新たに 10 地区 (11 駅) の重点整備地区を選定)
平成 25 年度	心のバリアフリーハンドブックの策定
平成 27 年度	四条通歩道拡幅事業完了
平成 28 年度	京都駅八条口駅前広場整備事業完了 選定した重点整備地区 (10 地区) などの「移動等円滑化基本構想」策定完了

【Web - URL】 <http://www.city.kyoto.lg.jp/>

宮崎空港ビル株式会社・三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社 小型機対応の旅客搭乗橋の開発と日本初の導入

講 評

宮崎空港ビル株式会社は社会の様々な変化がある中、会社トップから社員一人ひとりに到るまで地方空港としての誇りを堅持し、自社空港ビルの個性的整備を継続的に展開してきた。今回の受賞対象である小型機用旅客搭乗橋は、宮崎空港ビル株式会社及び三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社両企業がすべてのお客様への公平な搭乗を目指して試行錯誤を繰り返して実現したものである。宮崎空港ビル株式会社ではこの旅客搭乗橋開発と並行して、地域密着型のユニバーサルデザイン整備を積極的に推進しており、他の地方空港ビル整備の模範となるこれらの取組みを高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

■ 取組みの概要

宮崎空港ビル株式会社及び三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社は、日本初の2階搭乗ゲートから直接搭乗可能な小型機対応旅客搭乗橋の開発と設置によって空港のバリアフリー化の推進及び利便性向上を実現した。

● 日本初の小型機対応旅客搭乗橋「ひなたらくちんブリッジ」の開発・新設

これまで100人乗り未満の小型機では、搭乗口の位置が小型機によって違いがあることから通常の旅客搭乗橋が使えず、雨の中一旦地上に降りて徒歩やバスで移動となっていたが、この状況を解決するため、宮崎空港ビル株式会社及び三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社両社共同で粘り強く研究開発を進めた結果、日本初となる小型機対応旅客搭乗橋が完成し、2基設置し、実際の運用を行っている。また、小型機以外の旅客搭乗橋についてもステップレス旅客搭乗橋を3基設置し、高齢者や体の不自由な方の不便を解消し、利便性を高めることが出来た。



小型機対応旅客搭乗橋運用前



小型機対応旅客搭乗橋運用後

● 地方空港整備の模範となるバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備の積極的な推進

旅客搭乗橋のみならず、空港内の通路において、車いすの方が不便とならないようエレベーター等移動ルートの確保を図り、多目的トイレについても館内に13か所設置しているなどバリアフリー整備の推進を行っている。また、空港内各室も誰にも親しめる空間デザインに努めており、特に授乳室のインテリアは個性あふれるオリジナルデザインを積極的に展開した。



授乳室



多目的トイレ

◎ 今後期待される取組み

宮崎空港ビル整備の特徴は地域の特性を生かしたバリアフリー、ユニバーサルデザインの実現である。空港内通路やトイレ、授乳室整備でもオリジナルなインテリアデザインを積極的に採用しており利用者からの評価も高い。今後は他の地方空港への積極的な広報と、引き続き利用者の声に耳を傾けた、利用者参加型の空港整備の取組みに期待したい。

喜びの声



宮崎空港ビル株式会社
代表取締役会長
長瀬 保廣 氏

《コメント》

この度は、このような栄えある賞を頂き、役職員一同大変光栄に思っております。

2017年12月26日に私達の長年の夢だった小型機対応ロングPBB（旅客搭乗橋）が完成し、供用開始致しました。これまで小型機に乗降する際は、全国の空港でも一旦地上に降りるのが一般的で、特に高齢者や車椅子のお客様にはご不便をおかけしておりました。

当社創立50周年時におもてなしの向上として構想を開始し、実用化出来るか分からない中、三菱重工交通機器エンジニアリング様が私共の申し出を真摯に受け止め、研究して頂きました。機体のドアの高さの違う様々な機種に対応するのに大変苦労されましたが、航空会社様のご理解とご協力もあり構想から6年の月日をかけて実現致しました。

おかげさまでご利用のお客様や航空会社の皆様からも大変喜んでいただいております。

今後の更なる利便性の向上、航空業界の発展に少しでもお役に立てればと願っております。

【受賞者】 宮崎空港ビル株式会社

【連絡先】 宮崎市赤江

【活動等の経緯】

2010年 保安検査場リニューアル

2012年 小型機対応ロング旅客搭乗橋の開発開始

2015年 トイレリニューアル（多目的型、ベビーシート、オストメイトなどの増設）

2017年 小型機対応ロング旅客搭乗橋運用開始

【Web - URL】 <http://www.miyazaki-airport.co.jp>



三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社
代表取締役社長
坂本 一秀 氏

《コメント》

この度は、このような名誉ある賞を頂き、弊社社員一同 大変光栄に思っております。

弊社航空旅客搭乗橋の本格的なバリアフリー化への取組みは、2010年に搭乗橋の床の段差を無くしフルフラット化したのが始まりで、以来このタイプの搭乗橋を多数製造して参りました。この度は宮崎空港ビル様から「旅客昇降用タラップを装備した小型機にも直接装着でき、車椅子も円滑に通行できる搭乗橋ができないか」と言うお話を頂戴し空港ビル様と共同で開発させて頂きました。

開発に当たっては克服すべき多くの技術的課題があり空港ビルの皆様と共に大変苦労して解決してきた経緯もあり、運用開始当日の感激が今でも鮮明に思い出されます。

今後も弊社の搭乗橋、ホームドア他の製品に関し、エンドユーザ様の目線に立った継続的改善に注力していきたいと考えています。

【受賞者】 三菱重工交通機器エンジニアリング株式会社

【連絡先】 広島県三原市糸崎南1丁目1番1号

【活動等の経緯】

2012年 宮崎空港ビル様と小型機へのPBB装着検討開始

2016年 最終モデルの設計開始

2017年 空港での試験完了、運用開始

【Web - URL】 <http://www.mhi-tes.co.jp>